

5-3

主題 24時間生活シートの導入

24時間シート

副題 個別情報の共有

情報の共有

研究期間 27ヶ月

事業所 特養・指定介護老人福祉施設 成蹊園

発表者：ユニット主任 堀井 圭

アドバイザー：

共同研究者：介護課長 小暮 良典

電 話 0428-32-7220

メール

FAX 0428-32-7230

URL

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

当施設は山紫水明の地、青梅市の北東部、圏央道青梅 IC から 10 分程に位置し、美しい緑の森と近くには霞川も流れ、ゆるやかな南傾斜地という恵まれた環境にある施設です。一部ユニット型で、現在 160 名の入居者の方が生活されております。

《研究前の状況と課題》

- ・多職種の持つ専門的情報の共有
介護・看護・栄養・機能・生活相談員・介護支援専門員が、各専門の見地から持っている情報が、共有・活用されていなかった。例えば、入居者の服薬の詳細を知りたい場合には、看護師室に行かなければ確認できない状況であった。
- ・膨大な入居者情報の整理
職員一人ひとりの持つ入居者情報、多職種からの情報を集めると、膨大な量の情報となり、欲しい情報をすぐに検索することが困難であった。
- ・チームワークの更なる向上
入居者の生活は、24時間絶え間なく続いている。それに対し職員は、交代勤務でサポートを行う。その中で、一人ひとりの入居者の連動した24時間を途切れさせないためには、更なるチームアプローチの向上が必要であった。
- ・職員間の気づきの共有
- ・職員の習熟度による対応の差の是正
大きな入居者状況の変化については、問題なく共有が図れていた。しかし、「入居者のわずかな変化」「確信まで至らない変化の前触れ」等、「職員一人ひとりの気づき」の共有が、ユニットでは変則的な勤務、職員同士の勤務が重なる時間の減少などにより困難になっていた。

《研究の目標と期待する成果》

- ・多職種の持つ専門的情報の共有
入居者の情報が有効的・効果的に活用できることを期待して、一つのシートに情報が集約できるよう取り組んだ。
- ・膨大な利用者情報の整理
入居者に関する多職種の膨大な情報量を整理し、迅速に適切な対応ができるようにパソコンでの管理に取り組んだ。
- ・チームワークの更なる向上
入居者にいつも同じケアが提供できるよう、チームで24時間生活シートを活用し個別ケアの標準化に取り組んだ。
- ・職員間の気づきの共有
- ・職員の習熟度による対応の差の是正
入居者に関するわずかな変化や前触れも把握できるように、職員の気づきや些細な事柄でも24時間生活シートに入力し、情報を共有するよう取り組んだ。

《具体的な取り組みの内容》

- ・勉強会（全体、個別）の実施
- ・既存フェイスシート、既存24時間シートを多職種の持っている入居者情報を載せられるように、様式変更を行った。
- ・個人の詳細情報頁の作成
- ・生活環境に馴染めない入居者の場合、自宅を訪問し、居室を在宅時に近い環境に設えた。
- ・職員一人ひとりの持っている入居者情報の書き込みネットワークを構築し、情報の共有を図れるようにした。

《取り組みの結果と評価》

- ・フェイスシートに、多職種の専門的情報を入力する項目を導入し、また、24時間生活シート一覧表から、多職種専門頁へのリンクを構築した。その情報をパソコンで管理、閲覧することにより、情報の一元化が図れ、膨大な情報の整理にも役立った。
- ・従来からの業務都合上の日課から脱却することができ、入居者は寝たい時間に眠り、起きたい時間に起きられるようになった。職員は、入居者それぞれの起床時間、就寝時間をチームとして知ることができ、個別ケアの標準化が図れたといえる。
- ・入居者一人ひとりのことを深く知ることができ、24時間生活シートの普段の様子と、イレギュラーな時の様子を比較できるようになり、ちょっとした変化を見逃さなくなった。また、すれ違い勤務のため、それまで困難であった、上司・先輩職員からのアドバイスが、24時間生活シートを介して行うことにより容易になった。

《まとめ》

利用者の情報をパソコンを活用して24時間生活シートに集約する事により、職員が瞬時に必要な情報・状況を把握し、ケアの標準化が図れるようになり、利用者個人を見ていく個別ケアの視点が、より深まったように思われる。また、24時間生活シートを活用し入居者一人ひとりの生活習慣や好み に合わせたケアをより充実させていただくための今後の課題も見つかった。

《今後の課題》

- ・24時間生活シートに基づいた、より効率的な職員配置と入居者ニーズに即した勤務形態の導入
- ・24時間生活シートマニュアルの作成
- ・24時間の暮らしに合致したケアプラン作成と、ケアの一致

24時間生活シートという個別ケアツールを最大限に活用していくため、課題の解決に取り組んでいく。

《提案と発信》

今までよく『個別ケア』という言葉を目にしてきたが、いざ現場では個別ケアの取り組みの術や手法の糸口が見つからない状況であった。

24時間生活シートというツールに取り組んだ事により、個々の入居者の全体像が見え、職員もシートを通して入居者の理解を深め個別ケアの標準化に繋がった。そうした意味から考えると、これからの福祉業界（介護の現場）において24時間生活シートというツールの活用は必要不可欠になってくると思われる。また、情報の一元化を目的としたパソコンの活用も必要だと感じる。

【メモ欄】 追加資料 ☒ 有 ☐ 無